

命を守る交通安全

白山市立広陽小学校 中村 未唯奈

最近、登下校中の小学生が道路に飛び出して事故にあってしまうということや、車が小学生の列に突っ込んだという事故をニュース等でよく耳にします。そのたびに私は「またか。」「身の回りで起きたら、こわいな」と不安な気持ちになります。

実際、私の身近でも下校中に、同じ学校の子のぼうしが風に飛ばされ、車が来ていることに気づかずに飛び出してしまったということがありました。その時は運転手の人が早めに気づいて止まってくれたので、事故にならずに済みました。

このような出来事から、私は特に二つのことを心がけようと思いました。

一つ目は、「もしかして。」と思いながら行動することです。そうすれば車が急に出てきても、すぐに動けると思ったからです。

二つ目は、安全確認のために周りをよく見たり、待ったりすることです。なぜかという、実際に信号の無い交差点や横断歩道を渡っていた小学生が車にひかれて重傷を負ったというニュースがあったからです。私はいつも家族に「前からくる車だけでなく、後ろから曲がってくる車にも気を付けてね」と言われています。だから、横断歩道を渡る時は車が来ていないか、しっかりと周りを見てから渡るようにしています。

これらは二つとも当たり前のことですが、改めて意識することで事故をより防げると思います。

そして、大人も運転中に他のものを見ずに、ちゃんと前を見て運転しないといけないけれど、子どももそれ以上にちゃんと周りを見て、お互いに思いやりの気持ちをもって行動することが大切だと思いました。このような考えを大切にして、これからも、上級生として下級生を誘導し、安全に登校できるようにしていきたいと思います。